

令和7年のアワビ漁況

1. 令和7年の漁模様

本県のアワビ漁は6～10月にかけて、主に素潜りで行われます（10月は特別採捕許可による操業）。今漁期の漁獲量は19.0トンで前年をわずかに上回り、昨年に引き続き好調な漁獲となりました（前年比105%、図1）。また、1日あたりの漁獲量（kg/日）は前年を上回り122.7kg/日となりました（前年比125%、図1）。一部では、漁獲が好調で漁獲量の積み上がりが早かったことから、早期に操業を終了した浜もありました。月別の操業日数比率を見てみると、時化の多かった7、9月に少なく、6・8月に偏る結果となりました（図2）。

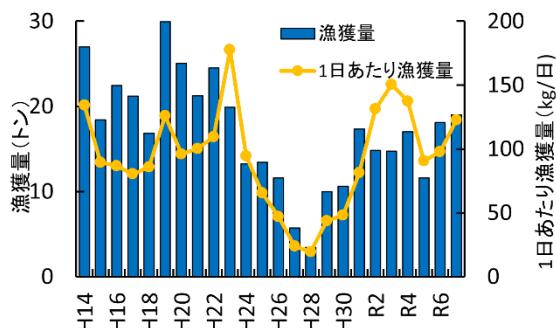


図1. 茨城県におけるアワビ漁獲量と1日あたり漁獲量の推移

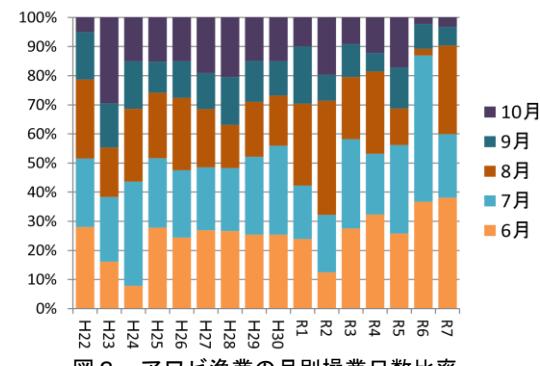


図2. アワビ漁業の月別操業日数比率

2. 種苗放流の効果

本県のアワビ資源は天然と人工種苗（放流貝）が由来となっており、毎年約24～30万個の人工種苗が放流されています。放流貝は殻の頂点付近（若い頃の殻）が緑色で、天然貝と見分けることができます（図3）。

水産試験場では、毎年漁獲されたアワビに放流貝がどの程度含まれているかを調査しています。今年の放流貝の割合は8.8%で、低かった昨年よりわずかに上昇しましたが、ほぼ同程度で推移しました（図4）。割合の低い理由として食害等が考えられますが、まだはっきりとは分かっておりません。また、天然貝の資源状態が良いために放流貝の割合が減少している可能性もあり、今後は多角的に検証する必要があります。

水産試験場では、アワビ資源の維持・増大を図るために必要な調査や分析を実施し、適切な資源管理をサポートできるよう引き続き取り組んでまいります。



図3. 天然貝と放流貝の見分け方。放流貝は矢印で示す殻の頂点付近が緑色になっている。

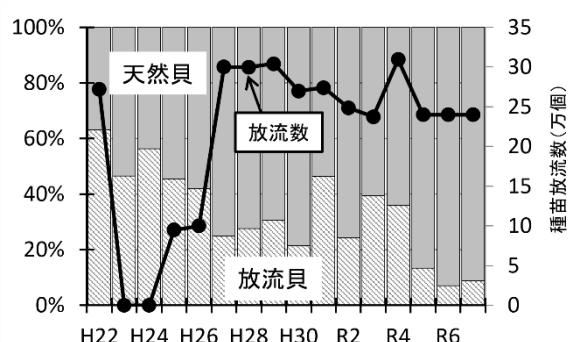


図4. 漁獲物に占める放流貝の割合と種苗放流数の推移。放流種苗の漁獲は放流から約3年後以降となる。

（定着性資源部 外山 太一郎）

【次回予告】次回「長期漁海況予報会議結果」は1月中旬頃の発行を予定しています。